

No. 1166

中日、人工芝に泣く

巨人対中日の第7戦は5月16日、5万の大観衆を集めた後楽園球場で行なわれました。

4回の表、中日はノーアウトでローンがセンター前にヒット。続く井上もレフト前にヒットし、ノーアウト二塁・一塁と中日絶好のチャンスをつかみました。が、四番マーチン、五番島谷が倒れツーアウト。大島のライナーはセカンドジョンソンの好守備にはばまれ、中日はおいしいチャンスを逃しました。そのうら巨人はツー・アウトながら松本から王が四球を選び出塁。

五番末次のレフト、井上の左を抜く二塁打で王がせいかん。巨人先取点をあげました。

この時、人工芝に大きくはずんだ白球はヘンな角度でグラウンドに転がり、中日は「ファンの手にさわったのだから一塁走者の王は三塁でストップだ」と激しく抗議。しかし線審は判定をくつがえさず試合続行。

人工芝とおかしな判定にすっかり歯車の狂った中日は打たれながらも要所をしめた堀内に完封を許し、結局2対0で敗れました。

五つ子・東京へ

鹿児島市立病院で生れたNHK記者、山下頼充さん、紀子さん夫妻の五つ子の赤ちゃんは、5月12日午後103日ぶりに退院し父親頼充さんをはじめ、祖父母、医師、看護婦らに抱れて、元気に東京、羽田空港についた。

出迎えた百人を越す報道陣にもびっくりした様子もなく、ごきげんがよかった。

羽田空港からはパトカーに前後を守られ、3台の車に乗り日大板橋病院に向った。

日大板橋病院で近所の主婦や入院患者ら約千人が待ちかまえる中、五つ子の赤ちゃんは到着。母親の紀子さんが体の調子が十分でなく鹿児島の病院に残ってしまったが、それでも、父親の頼充さんに抱かれた長男福太郎ちゃんをはじめ五人が揃うと大歓声上がり、さかんな歓迎を受けた。

父親山下頼充さんの話。

「これから先、想像もつかないことが起るかも知れませんが弱音をはかずにやってみようと思います。」

1日に使う、オムツの数、950枚5人が大学を卒業するまでかかる費用が1億円を越すという、ロッキードをはじめ暗いニュースの続いている昨今、ほほえましい五つ子の赤ちゃんだがこれからの大変だ。